

大会報告

2012年 世界室内自転車競技選手権 ドイツ・アッシャッフエンブルグ大会

日本代表選手団 宮川 廣平

去る11月4日(金)～6日(日)の日程にて日本代表選手団は10名にて結団、ドイツ・アッシャッフエンブルグでの世界選手権へ参戦。サイクルサッカーは昨年度から2年連続で木下直也・松田鋼組(VfB 東京)、セカンドチーム藤田洋介・時倉宗大組(蔵前)、サイクルフィギュアは男子シングル芝山耕輔(VfB 東京)、女子シングル佐藤風沙(SFC アンジー)というエントリーとなった。

11月初旬とはいえ、ドイツは冷え込みが厳しく、また期間中は雨にも見舞われる天候のもと、アッシャッフエンブルグの会場には世界各地から多くのアスリートと観客が訪れ熱戦が繰り広げられた。今年度の会場は比較的狭目のフロアにコート中央に配置し、周囲に特設観客席を増設して計4500席を集約。観客席とコートが密接し、歓声が反響しやすい「盛り上がり」重視のレイアウトであった。フランクフルトから車で1時間程度のドイツ中心部というアクセスもあり、メインプログラムの時間帯は満席・立ち見客多数の状態となった。日本選手団は31日(水)現地集合という従来とは異なる形式にて召集。事前合宿を実施しなかった点には賛否あるが、今回のメンバーの経歴や開催地アクセスなどを考慮しての判断であり、調整等での影響は無かったと思っている。

サイクルサッカーは今年もグループB(二部リーグ)優勝、グループA復帰を命題として戦ったが、全勝対決の最終戦でルーマニアと引き分け、得失点差で及ばずグループB2位に終わった。今年のグループBは昨年の5ヶ国から7ヶ国に増え、試合数も6試合となった。日本にとっては、決勝のルーマニア戦まで5試合を経由してフロアや雰囲気を感じることができることは歓迎すべきプラス材料であった。事実、初戦のハンガリー戦では硬さが残るプレーが目立ち(前半1-0で折り返し、後半突き放して5-2で勝利)、若いメンバーが思い切った攻撃を仕掛けてくるマレーシア相手には後手に回る部分もみられた(5-3で勝利)。思い通りにいかない「世界戦の空気」に苦労したがバックアップに入った藤田と時倉、メカニックとして参加の村上裕亮(ピンキーズ大阪)のコーチングや試合前後の助言などにより一戦ごとに微調整を重ね、初日最終の香港戦では9-1と完勝。プラン的にもメンタル的にも「嵌った」快勝劇を見せた。

2日目、オランダを危なげなく下し、ルーマニア決戦の直前のチームの雰囲気も高揚、対照的にルーマニア勢は控え通路での硬い表情が印象に残っている。

過去2年間、ルーマニアとの決戦は1-2、2-4のスコアで敗れている。今回も少得点差かつロースコアの堅いゲームになると予測。懸念材料は昨年同様「得失点差」であり、パワーに長けるルーマニアは下位チームから大量点を稼いでおり、日本に10点の差をつけていた。すなわち「引き分けアウト」の状態、1点ビハインドとほぼ同条件でのキックオフとなった。

結果としてこの条件が雌雄を決してしまうことになった。開始1分、微妙なジャッジでPKを献上、絶対に欲しかった先制点を相手へ渡してしまう。日本は残り12分間で2点が必要となり、当然ルーマニアは守備的にゲームをすすめる。日本は冷静にゲームを組み立て、マイボール時にはシュートまで繋げるも、決定力を欠きCK(コーナーキック)となる流れが続く。CKを3度獲得したが決めきれず、0-1で前半終了。

後半は2点が必要な日本が攻め、ルーマニアが応戦するという形成となる。残り3分以上残した時点で左CKを決めて同点。日本に流れが傾き、勝ち越しは時間の問題だと思えた。ただその後うまく時間を使われ、CKもねじ込むこむことが出来ず、タイムアップ。この試合で獲得したCKは実に6本であった。

3年連続で同じ順位となり、来年もグループBで参戦することが決定した。2009年のポルトガル大会以降、世界トップのグループAから4年間遠ざかることは国内での競技の発展に大きなマイナスである。競技人口や体格でさほど日本と差がないフランスやベルギーはグループAに残留することでモチベーションを保ち、徐々に実力をつけている。年を追うごとにグループA復帰が険しくなっていることを、自覚しなければならない。また木下・と松田はそれぞれ10年以上代表の看板を背負っており、彼らに頼りきりの国内の状況からは次なる発展の要素を見出すのは難しい。選手、関係者共々この状況を把握し、今後対策に尽力していかねばならないと思う。

そんな中、プレーヤーの立場ながら自我を抑制してサポートに徹してくれた時倉、藤田、村上の献身は非常に大きかった。彼らあつての優勝と同勝点の16P獲得であり、彼らのモチベーションは近い将来必ずグループA復帰への原動力となってくれるはずである。

6試合を5勝1分、勝点16PグループB2位。参加全13か国中、唯一の無敗国として大会を終えることとなった。

サイクルフィギュアは男女1名ずつのエントリーとなった。芝山は今夏よりドイツに拠点を移してトレーニングを重ねており、佐藤も18歳ながらすでに四度目の世界戦である。国内にも若いプレーヤーが増えておており、2名には今後は日本のサイクルフィギュアを支えるエースの自覚をもって活動を進めてほしい。世界選手権を「参加する場所」から「戦う場所」への意識変革を日本のサイクルフィギュア界にも根付かせていかねばならない。

芝山 76.20p(24位)佐藤 59.37p(15位)。2名とも厳しいジャッジと独特の雰囲気の中、メンタルでの安定度が増してきている。世界戦に「慣れる」ための猶予期間は既にもう終わった、というスタンスと自覚を強く持って次年度へむけて躍進してほしい。

2012年 UCI 世界室内自転車競技選手権大会の成績報告 (1)

11月2-5日 アシャヘンブルグ (ドイツ)

サイクルサッカー競技

グループ A

順位	選手	国
1.	Roman Schneider / Dominik Planzer	スイス
2.	Patrick Schnetzer / Dietmar	オーストリア
3.	Jens Krichbaum / Marco Rossmann	ドイツ
4.	Pavel Smid / Petr Skotak	チェコ
5.	Frédéric Doell / Stéphane Bauer	フランス
6.	Brecht Damen / Niels Dirikx	ベルギー



オーストリア スイス ドイツ

グループ A/B 入替戦

ベルギー	6 : 1	ルーマニア
------	-------	-------

ベルギーがグループ A 残留

グループ B

順位	国	競技者	ROM	JPN	NED	HUN	HKG	MAS	CAN	得失点	勝点
1.	ルーマニア (ROM)	Dorian Toroftei Mircea Tric		△ 1:1	○ 6:1	○ 7:0	○ 9:0	○ 7:1	○ 15:1	45:04	16
2.	日本 (JPN)	木下 直也 松田 鋼	△ 1:1		○ 5:1	○ 5:2	○ 9:1	○ 5:3	○ 15:1	40:09	16
3.	オランダ (NED)	Jos Van Dijk Karel Van Dijk	● 1:6	● 1:5		○ 2:1	△ 4:4	○ 6:2	○ 9:0	23:18	10
4.	ハンガリー (HUN)	Tamas Szitas Vilmos Toma	● 0:7	● 2:5	● 1:2		○ 4:3	○ 5:4	○ 8:1	20:22	9
5.	香港(中国) (HKG)	Wing Tai Ho Chun Hin Kwan	● 0:9	● 1:9	△ 4:4	● 3:4		○ 5:4	○ 8:3	20:33	5
6.	マレーシア (MAS)	Dahalan Mohd Zikri brahim Ibra Izuan	● 1:7	● 3:5	● 2:6	● 4:5	● 4:5		○ 7:1	21:28	4
7.	カナダ (CAN)	Jean Saucier Penoit Fish	● 1:15	● 1:15	● 0:9	● 1:8	● 3:8	● 1:7		07:62	0



松田鋼選手と木下直也選手



日本 ・ルーマニア ・オランダ



対ルーマニア戦コーナーキックを決めて1対1

2012年 UCI 世界室内自転車競技選手権大会の成績報告 (2)

11月2-5日 アシャヘンブルグ (ドイツ)

サイクルフィギュア競技 (日本選手の出場種目のみ)

女子シングル					男子シングル						
順位	競技者	国	持ち点	結果	減点	順位	競技者	国	持ち点	結果	減点
1	Corinna Hein	ドイツ	187,90	170,53	-17,37	1	David Schnabel	ドイツ	212,10	200,92	-11,18
2	Sandra Beck	ドイツ	187,50	167,55	-19,95	2	Florian Blab	ドイツ	211,20	187,25	-23,95
3	Adriana Mathis	オーストリア	173,20	158,90	-14,30	3	Yannick Martens	スイス	172,00	162,14	-9,86
4	Nikola Lebankova	チェコ	172,00	151,17	-20,83	4	Arnost Pokorny	チェコ	180,10	157,92	-22,18
5	Melanie Mörth	オーストリア	162,70	143,65	-19,05	5	Patrick Klein	フランス	162,10	149,79	-12,31
6	Sabrina Mäder	スイス	152,40	131,78	-16,22	6	Lukas Burri	スイス	157,70	141,59	-16,11
7	Amanda Lee	スイス	143,60	129,45	-14,15	7	Hin Bon Ip	香港	159,20	141,10	-17,99
8	Adeline Fournier	フランス	143,40	121,46	-21,94	8	Fabian Allgäuer	オーストリア	148,40	134,83	-13,57
9	Kimberley Deschroodere	ベルギー	119,70	103,13	-16,57	9	Jean Carmier	フランス	145,60	127,05	-18,55
10	Kuan Sok Mui	マカオ	109,90	96,17	-13,73	10	Marco Giorgio	イタリア	135,70	120,36	-15,34
11	Odile Rietsch	フランス	129,20	94,16	-35,04	11	Mak Rainfield	香港	151,90	117,82	-33,08
12	Tatika Bovendaerde	ベルギー	125,40	92,93	-32,47	12	Jakub Masek	チェコ	163,90	113,49	-50,41
13	Anita Zagyai	ハンガリー	107,30	65,72	-41,58	13	Csaba Varga	ハンガリー	146,00	108,88	-37,12
14	Kristina Heytsi	ウクライナ	76,50	63,80	-12,70	14	Martin Schön	ハンガリー	156,20	107,10	-49,10
15	佐藤 風沙	日本	81,10	59,37	-21,73	15	Lei Fai	マカオ	113,00	87,13	-25,87
16	Evelin Szecsödi	ハンガリー	70,70	55,26	-15,44	16	Marcel Schnetzer	オーストリア	118,60	86,91	-31,69
17	Leong On I	マカオ	60,30	45,88	-14,42	17	Lorenzo Vandorpe	ベルギー	92,80	78,03	-14,77
						18	Kristian Gei	ウクライナ	80,30	70,17	-10,13
						19	Maxime Poulin	カナダ	86,40	62,20	-24,20
						20	Zulkifli Mohd Danal	マレーシア	74,20	61,80	-12,40
						21	Abd Rhaman Amirul Safuan	マレーシア	68,90	56,89	-12,01
						22	Francis Gadbois	カナダ	91,50	54,84	-36,66
						23	Aliks Kuchera	ウクライナ	82,30	54,11	-28,19
						24	芝山 耕輔	日本	76,20	52,90	-27,50
						25	Antoni	ポーランド	68,20	52,66	-15,54
						26	Chan Hou Pong	マカオ	72,20	46,90	-25,30
							Paddy Waters	アイルランド	79,50	棄権	--
決勝						決勝					
1	Corinna Hein	ドイツ	187,90	179,93	-7,97	1	David Schnabel	ドイツ	212,10	208,46	-3,64
2	Sandra Beck	ドイツ	187,50	177,75	-9,75	2	Florian Blab	ドイツ	210,60	198,98	-11,62
3	Adriana Mathis	オーストリア	173,20	165,19	-8,01	3	Yannick Martens	スイス	172,00	164,27	-7,73
4	Nikola Lebankova	チェコ	172,00	161,64	-10,36	4	Arnost Pokorny	チェコ	180,10	162,47	-17,63

